稲葉市長のやり方では焼却場問題は大混乱に

2007年２月12日(月)
日本共産党・板倉真也

小金井市、調布市、府中市の可燃ゴミを燃やしている二枚橋焼却場が老朽化のため、今年３月末で運転を終了する。小金井市は二枚橋焼却場に替わる新たな焼却施設を、10年後から国分寺市と共同で運営すると述べ、焼却施設建設の候補地案を２箇所、発表した。しかし、当該の地域住民からは怒りと反発が拡がっている。どうすれば、新焼却施設建設の道筋をつけることができるだろうか。

現時点、何が問題になっているのか

未だ見えず、燃やすゴミの全量処理

[国分寺市に1/3、他の施設に2/3]

新しい処理施設が完成するまでの間の10年間、燃やすゴミを他の施設で焼却してもらわなければならない。国分寺市は、燃やすゴミの 1/3・約６千トン(年間)を受け入れると表明。残り 2/3・１万３千トンは、三多摩の他の焼却施設にお願いすることになる。しかし未だに受け入れ先は発表されていない。

[受入れに難色示す自治体が出現]

受入れ要請先の一つ「柳泉園焼却場」（東久留米市・清瀬市・西東京市で運営）の構成団体の東久留米市議会は昨年12月21日、「小金井市の今後のごみ処理計画に対する意見書」を可決。「当議会においては、10年間にわたる長期間の『ごみ処理広域支援』の考えはあり得ない」と結論づけている。

また、「柳泉園焼却場」を運営する自治体で構成する「柳泉園組合議会」も昨年11月28日、「広域支援体制は、あくまでも緊急避難的な対応」との文書を小金井市に送付し、10年間もの支援は、あり得ないとの認識を示している。

同様な状況は他の焼却施設でも予想され、小金井市のゴミを搬入される側の地域住民の気分・感情を反映した動きが起きている。

「候補地」住民の怒り・反発渦巻く

[建設候補地案２箇所が示される]

小金井市は新焼却施設ができるまでの期間、国分寺市の焼却施設に小金井市の燃やすゴミの1/3を持ち込む(すでに昨年10月から搬入中)。しかし国分寺市が懸念しているのは“新焼却施設が果たして10年後に完成するのか？。完成しなければ、ずるずると国分寺市の焼却施設に持ち込まれるのではないか”。そのため国分寺市は小金井市に対して、新焼却施設の建設候補地を示すよう要求。１月11日、小金井市は国分寺市に対して「二枚橋焼却場用地」と「ジャノメミシン工場跡地」の２箇所を候補地案として提示した。

[事前の説明なし、青天のヘキレキ]

「二枚橋焼却場用地」が候補地にされるのは、地元住民も想定の範囲。しかし「ジャノメミシン工場跡地」は、晴天のヘキレキ。候補地の決め方は「住宅地図を見て、１ha以上の土地があり、取得可能な場所であること」というやり方。「１ha規模の農地は、持ち主が売ってくれるかどうかわからない」「都立公園は、東京都がダメといっている」「大学グランドは、大学側が手放す方針をもっていない」との理由で、候補地から除外。そこから「二枚橋」と「ジャノメ」が残った。

驚いたのはジャノメ周辺の住民。近隣のマンションに住む住民は「ジャノメ跡地は、市役所建設予定地」と説明を受け、移り住んでいる。仮に、武蔵小金井駅南口再開発事業との交換用地として利用されるにしても、マンションができるくらいの認識。誰も、焼却場とは考えてもいなかった。そのため、１月20日からスタートした焼却場問題の市民説明会では、怒りと反発が渦巻いた。

「二枚橋焼却場」住所：調布市野水2-1-1

1958年４月稼働。今年３月末で49年経過。自治体の焼却施設では「国内最古」と呼ばれている。小金井市・調布市・府中市が共同で運営。

1958年 自然通風頂上投入式焼却炉でｽﾀｰﾄ
　　37.5トン/８時間　１基導入
1961年 同型の焼却炉を１基増設
現行の処理能力　焼却 510t／日
　　(135t×３炉、105t×１炉)
　　破砕　30t／５時間

２号炉：1967年完成 ―― すでに停止
１号炉：1967年完成
３号炉：1972年完成 ―― 昨年10月、12月、今年３月と順次停止。３月末には全ての運転を終了する。
４号炉：1972年完成

[処理量(2005年度)]

小金井市	１万9,404トン（一日75トン）	今年４月以降、計８万トン余が新たな場所で焼却される。
調布市	３万9,400トン	
府中市	２万1,263トン	
合計	８万　67トン	

小金井市に関わる この間の経緯

2004年５月‥‥ 二枚橋終了にあわせて、小金井市のゴミを国分寺市の焼却施設に受け入れてもらえるよう、小金井市が国分寺市に要請。その際「将来の焼却場建設を含めて、可燃ゴミを共同処理することについて協議したい」と伝える。

2004年11月‥‥ 二枚橋組合議会で、将来の燃やすゴミ焼却処理体制を検討し、以下が了承される。
- ▷調布市は三鷹市と共同処理する
- ▷府中市は二枚橋以外で一括処理する
- ▷小金井市は新たな団体と共同処理する方策をすすめる
- ▷2009年度までに二枚橋施設を終了する

2005年６月28日 国分寺市役所内部の会議で「小金井市のゴミの全量受入れ不可能」が報告される。

2005年７月‥‥ 二枚橋組合議会で、以下が了承される。
- ▷焼却炉の廃止は2007年３月
- ▷組合の解散は適切な時期とする
- ▷組合の財産は小金井・調布・府中で３分の１ずつとする
- ▷組合解散までのゴミ処理は組合が行なう

[テレビ番組も取材]

２月３日(土)の第一小学校の説明会には、ＴＢＳテレビが取材に。２月18日(日)午後１時～２時の「噂の！東京マガジン」で放映される予定。全国に小金井市の焼却場問題が知られることになる。

「二枚橋」も「ジャノメ」も問題あり

[二枚橋は67ｍの煙突が限度]

二枚橋焼却場用地は、調布飛行場の離発着地の延長線上にあるため建物の高さ規制が設けられている。南側で57ｍ、北側で67ｍまで。煙突をできるだけ高くして、煙突から出るダイオキシン類や煙を大気中に拡散しようと思っても、二枚橋は段丘下にあるため、低い煙突から吐き出された物質は段丘上の東町、中町住民の住宅地に降り注ぐ。「不適地」といわれるのはそのため。しかも、約50年間も焼却場に苦しめられてきた地元住民にとっては、「もうゴメン」となるのは当然のこと。

[ジャノメ周辺はマンション密集地]

「なぜマンション密集地が候補地にされるのか」は多くの人たちの共通の意見。煙突の高さは、125ｍまでは可能。しかし、目の前に焼却場と煙突ができれば、マンションの窓を閉めたくなるのはあたりまえ。「マンションの資産価値が落ちる」との意見もうなずける。施設ができるだけでなく、小金井市と国分寺市の生ゴミや燃やすゴミが毎日、頻繁に搬入される。臭いや大気汚染、交通問題も心配。焼却場は最低でも20年間は使われるので、その人の一生の問題に発展する。怒り・反発が生まれるのは、あたりまえ。

[市の計画にも反する「ジャノメ候補地」]

小金井市が発表した候補地「ジャノメ」は、現行の小金井市の計画からも逸脱したものとなっている。小金井市が市民参加でまとめあげた「都市計画マスタープラン」(小金井市の将来像の計画:2002年３月策定)では、「ジャノメ」跡地は「新たなまちおこしの拠点」地区とされ、「農業公園、ＩＴなどを含む先端産業、少子高齢社会に対応した創造的・個性的な産業及び都市型住宅など新たなまちおこしの拠点として、土地利用の規制・誘導を図る」としている。焼却場では「まちおこしの拠点」とはなりえない。

10年後の新焼却施設建設は不透明

焼却場を建てるためには、近隣住民の協力なしには不可能。しかし、「二枚橋」「ジャノメ」ともに、住民の怒り・反発は高い。１月18日の「覚書」で国分寺市は、「2008年８月中に、小金井市は市民の理解を得る」ことを条件に付しており、あと１年半の間に市民・住民の理解を得ることは事実上、見えない状況となっている。

しかも、最有力候補と噂される「二枚橋」自体、新焼却施設建設には難題がある。二枚橋焼却場敷地は約1.15ha。焼却施設を建てるには１ha以上の土地が必要とされ、その土地を確保するためには、小金井市の持ち分(全体の1/3)だけでは足らない。そのため、調布市の持ち分と府中市の持ち分から土地を借りるか購入するしかない。しかし調布市は昨年12月の調布市議会で「二枚橋の跡地は、調布市クリーンセンターの移転候補地の一つと考えている」と述べ、調布市長は「調布市の持ち分については、焼却炉の建設は避けていただきたい」と明言している。すでに、2017年度からの新焼却施設稼働は赤信号となりつつある。

2005年11月‥‥ 国分寺市の焼却施設では、小金井市のゴミ量が1/3しか対応できないことを、小金井市が知る。

2006年５月１日 小金井市が国分寺市から「全量受入れは不可能」との正式回答を受ける。

2006年５月‥‥ 小金井市の二枚橋組合議員と建設環境委員会担当議員に、「国分寺市の施設では、全量処理は困難のようだ」と小金井市が非公式に説明。

2006年６月６日 日本共産党・関根優司議員が「国分寺市の焼却施設では 1/3しか処理できない」と指摘。小金井市も認める。

2006年８月18日 小金井市が国分寺市と「覚書」を結ぶ。
- ▷可燃ゴミの共同処理に向けて、2007年２月までに新焼却場（2017年度稼働予定）の建設場所に関することおよび、建設へのスケジュールを含めて、一定の方向を国分寺市に示すものとする

2006年10月１日 「小金井市報」で「ごみ非常事態宣言」を発令。

2006年11月６日 新焼却施設建設候補地案を検討するための市役所内部の委員会がスタート。

2007年１月11日 小金井市が国分寺市に対して、新焼却施設の建設候補地案２箇所を提示。

2007年１月18日 小金井市が国分寺市と第二弾の「覚書」を結ぶ。
- ▷小金井市の可燃ゴミ受け入れ量は年間 6,000トン以内
- ▷受入れ焼却費用は、トンあたり４万２千円(現行２万8,200円)
- ▷受入れ期間は当面、2008年８月末まで。それ以降は、新焼却施設建設に向けた小金井市の協議状況を見て判断する

新焼却施設の建設候補地案 市民説明会

１月20日(土)	第二中学校	69人
21日(日)	東中学校	64人
24日(水)	第二小学校	10人
28日(日)	東小学校	33人
31日(水)	南小学校	29人
２月３日(土)	第一小学校	204人
	（ＴＢＳ取材あり）	
４日(日)	第四小学校	30人
６日(火)	前原小学校	34人
10日(土)	本町小学校	30人
11日(日)	緑小学校	35人
15日(木)	第三小学校	
18日(日)	第一小学校	

なぜ、このような事態になったのか

無視・無策・無責任・無計画の稲葉市長

[住民も議会も無視]

稲葉市長は新焼却場の候補地案を、候補地周辺住民にも市民にも事前の説明なしに一方的に発表。同時に「二枚橋」と「ジャノメ」が候補地案としてふさわしいかどうかを市議会で協議している最中に、国分寺市に候補地案として提示してしまった。議

会協議が終了していないのに提示した理由を問われた市長は、「小金井市も国分寺市も、２箇所の候補地案を明記した『市報』がすでに印刷に入っており、市議会の協議が終了する前に、国分寺市民にも候補地案が知らされるため」。

[「非常事態宣言」は出したものの、方策はなし]

昨年10月１日、小金井市は「ゴミ非常事態宣言」を発令。市民には一日50グラムの減量を呼びかける広報紙を配布したものの、どうすれば50グラムの減量になるのかの具体策は示さず。

[責任者は助役。自身は矢面に立たない市長]

候補地案は、市役所職員で構成された庁内検討委員会で決められた。その責任者は助役。市長は「今年６月から市民参加で発足する『新焼却施設建設場所選定等市民検討委員会』で、最終的な候補地を決めてもらう」と述べ、あくまでも自身は矢面に立たない姿勢。候補地案を決める際は、助役が責任者。最終的な候補地は、市民が責任者。結局は、市民同士のぶつかりあいになるということ。

[計画をもたずにきた稲葉市長や保守市政]

焼却場の老朽化は20年前から指摘され、日本共産党市議団も10年以上前から「10年先を見据えたゴミ処理計画を持て」と要求。しかし、自民・公明の保守市政は対策を持たずにきた。同時期、二枚橋焼却場を一緒に運営してきた調布市と府中市は、方策を具体化。調布市は三鷹市との共同処理を模索し、府中市は多摩川衛生組合（稲城市・狛江市・国立市・府中市で構成）で一括処理する方針を立てた。結局、小金井市が国分寺市に要請したのは、2004年５月。この遅れが、今日のドタバタを生み出している。

秘密主義の稲葉市長

[「国分寺は1/3の処理量」を議会の指摘で認める]

国分寺市の焼却施設では「小金井市の可燃ゴミの全量処理は困難」を小金井市が把握したのは2005年11月のこと。そして昨年５月１日に、国分寺市から正式に「全量受入れは不可能」との回答を受けた。しかし小金井市は小金井市議会に対して、どれくらい国分寺市が受け入れられるのかは明らかにせず、「国分寺市の施設では、全量処理は困難のようだ」と述べるにとどまっていた。しかし一カ月後の６月市議会で、日本共産党の調査で判明した「1/3しか受け入れられない」を指摘されると、ようやく認める始末。このような重大なことを事実を突きつけられるまで認めない稲葉市長の秘密主義は、政治姿勢そのものが問われる。

それにしても、小金井市の行政力はいったいどうなっているのか。小金井市が国分寺市に可燃ゴミの共同処理を要請したのは2004年５月。それから実に１年半後に「全量処理困難」を小金井市が認識する事態に。そもそも、国分寺市の焼却施設の処理能力、受入れ能力を調査してから、コトにのりだすのが普通ではないのか？。そのことが今日の「４月以降の燃やすゴミの全量処理が未確定」の主因になっている。

[8･18覚書は結んだ後に公表]

昨年８月18日に小金井市が国分寺市と結んだ「覚書」は、「2007年２月までに新焼却施設の建設場所に関すること、建設へのスケジュールを含めて、一定の方向性を国分寺市に示す」というもの。しかし、市議会がこの内容を知ったのは、覚書を結んだ後。一方、国分寺市では、小金井市とどのような覚書を結ぶかを、６月時点から市議会の中で議論し、内容を検討していた。まさに稲葉市長は、議会にも市民にも隠して、秘密裏にものごとをすすめてきた。12月市議会で日本共産党市議団は、国分寺市のオープンなものごとの進め方を紹介し、小金井市の秘密主義のあり方を問題にした。そのことから小金井市は、１月中旬に結ぶ第二弾の「覚書」の案を市議会に示すようになった。

[議会で質問されても答弁避ける]

2004年秋以降、日本共産党市議団は、二枚橋焼却場に替わる具体的な対策の進捗状況を質問。しかし稲葉市長は「相手があることなので、今は明らかにできない」の一点張り。もちろん、その時点で言えることと言えないことがあるのはわかるが、一切明らかにしない姿勢が、今日の市民不在・議会無視の混乱や４月以降の全量処理未確定を生み出している。

再開発優先が事態を深刻に

[2004年６月、市長辞職。再開発を争点に市長選挙に打って出る]

稲葉市長は８年前の就任以降、駅前開発に執念を燃やし続けてきた。３年前の2004年６月には「再開発問題での市民の真意を問う」との意気込みで突然、市長を辞職。市長選挙に打って出た。また、２年前の市議会議員選挙で日本共産党は「駅前開発よりも老朽化した二枚橋焼却場の対策が先」と主張したが、稲葉市長と稲葉陣営は、再開発優先に固執した。

市長が突然の市長選挙に打って出た2004年６月は、国分寺市に対して「共同処理」を要請して間もない時期。稲葉市長自身、ゴミ問題が市政の重要課題になっていることを十分に認識していた段階でもあった。しかし市長を辞任し、一カ月後の市長選挙までの期間、市政は市長不在の事態に。その後も市長は、南口再開発事業を市政の中心課題に位置付け、2004年12月10日には、「再開発予算の凍結」を決めた９月市議会の決議を無視して、突如、再開発事業の予算を執行。2005年度から、南口再開発事業が進行しはじめることとなった。その一方で、ゴミ問題は、市民にも議会にも状況は知らされずじまい。そのため、事態はより深刻になっていった。

今年度以降の市民の税金投入予定額

武蔵小金井駅南口再開発事業	70億2,109万円
東小金井駅北口区画整理事業	115億7,921万円
中央線立体交差化事業	58億8,960万円
緑中央通りの拡幅工事	13億3,573万円
合　計	258億2,563万円

[大型開発に市税を次々投入]

３月末で終了する二枚橋焼却場の解体費用は、小金井市の負担だけでも十数億円になると見込まれている。一方、駅前大型開発（武蔵小金井駅南口再開発事業・東小金井駅北口区画整理事業）には今年度以降、市民の税金を 186億円余もつぎ込もうとし

ている。それだけでなく、中央線の立体交差化事業や道路拡幅事業にも今年度以降、72億円余の市税が使われるなかで、年間の市税収入 190億円の小金井市の財政では、たちまち夕張市のように莫大な借金で身動きができなくなる。さらに今後、新たな焼却施設費用に小金井市の負担だけでも70数億円が必要と見込まれ、とても大型開発に税金をつぎ込む段階ではない。

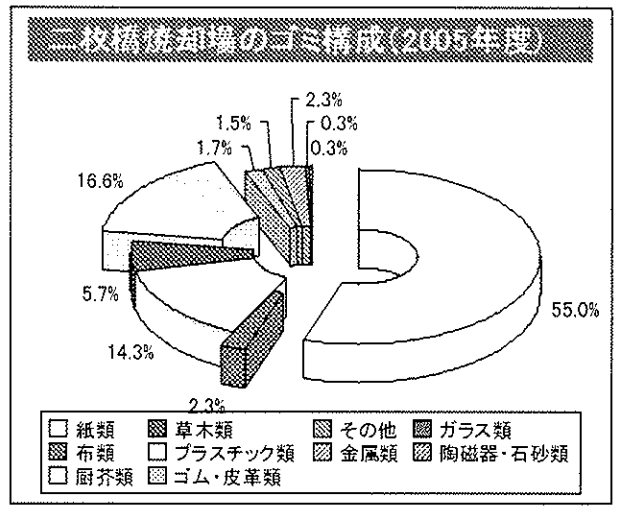
懸念される住民対立・孤立化

「二枚橋」「ジャノメ」が候補地案とされたことから、"もしかしたら自分の地域が候補地にされるのでは" と懸念していた方々からは安堵の声が。一方、"どうのこうの言っても、焼却場をどこかには建てなければならないのだから"と、怒りや反発を高める地域住民を冷やかに見る目も生まれている。稲葉市長は、武蔵小金井駅南口再開発事業のように、反対運動を行なう住民に対して「待ったなし！」を宣告し、「抵抗勢力」のレッテルを貼って孤立化させていくのではないだろうか。そのあげく、市民・住民同士の対立が起きていくことも予想される。あるいは稲葉市長は、そのことも見越しているのではないだろうか‥‥。

いかに打開するか。日本共産党の提案

新焼却施設は必要

ゴミ減量・リサイクルの促進で年々、ゴミ量は減少傾向にある。しかし、燃やさなければならないゴミは少なからず残る。よって、新たな焼却施設を確保することは必要。問題は、どのように進めていくかということ。



2 候補地案を白紙に戻し、市民参画で再議論を

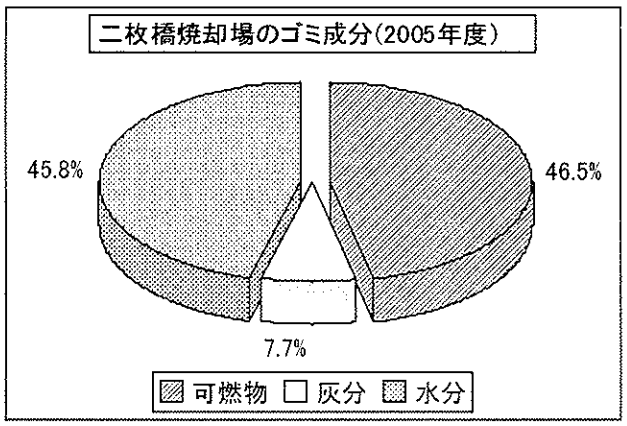
[市民参画で検討し直すこと]

市民・住民不在で選定された候補地案を白紙に戻し、各地域の住民を交えた、新焼却施設建設問題の検討を行なうべき。行政の機構に市民が参加するという抽象的なものではなく、市民と行政が一体になって検討する仕組み(「参画」)を築いていくこと。現状の市長の進め方では、10年後の新焼却施設稼働の保障はない。まさに、国分寺市が懸念する方向にもなりかねない状態。なお、国分寺市と共同処理を進めていくのであれば、国分寺市民にも参画してもらう必要がある。ただし市民のなかには「今年４月以降、小金井市のゴミは 1/3しか受け入れてもらえないのに、なぜ10年後には国分寺市のゴミを全量受け入れなければならないのか」「不平等」との意見もある。

※小金井市単独で処理施設をつくった場合は、国や都からの補助金は来ず、小金井市がまるまる負担しなければならない。一方、国分寺市など他の自治体と共同でつくった場合は、補助金が来るだけでなく、かかった経費は参加自治体で折半することができる。

[施設規模から議論を]

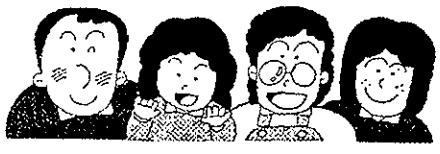
小金井市の現在の案では、一日のゴミ処理量が150トン(小金井市と国分寺市の合計)ならば、75トン炉を２基。処理量200トンならば、100トン炉を２基としている。一日の処理量が200トンならば、施設の建設費用は110億円前後になるといわれる。しかし小金井市のゴミ処理計画では、減量・リサイクル・堆肥化によって、小金井市のゴミ処理量は年々、減少する計画となっている。「150トン～200トン炉」は、現在の小金井市と国分寺市の一日のゴミ処理量そのままを計上しており、そのうえでの、処理施設の規模がはじきだされている。



減量・リサイクル・堆肥化の啓蒙活動と普及で、さらなるゴミ減量をすすめていく取り組みを行ない、それにそった施設規模にしていくことが必要ではないか。そうすれば「１ha以上の敷地」という要件に縛られずに、候補地も「二枚橋」「ジャノメ」に絞る必要がなくなる。もちろん、公害の少ない最新鋭の設備にすることは当然のこと。

[候補地になった地域住民に理解を得る努力を]

どこが候補地になっても、地域住民の了解は難しい。ゴミ減量・リサイクル・堆肥化の促進による燃やすゴミ量の抑制と、公害の少ない施設を建設、なかでも施設内容や公害問題での情報をオープンにし、開かれたゴミ行政にすることが求められる。そのことから「市民の日常の生活のためには、受入れることも必要」の意思形成が、地域住民の中につくられていくのではないだろうか。



すでに小金井市民は相当に努力している

ゴミ総排出量は４番目に少ない。可燃ゴミ排出量は一番少ない。資源化率(家庭排出物のうちの資源ゴミ量)は２番目。(いずれも2005年度)

[ゴミ総排出量※]		[可燃ゴミ排出量※]		[資源化率]	
清瀬市	769.4 グラム	**小金井市**	**475.0 グラム**	調布市	39.1%
東村山市	788.8 グラム	調布市	516.8 グラム	**小金井市**	**37.4%**
稲城市	790.2 グラム	東村山市	538.1 グラム	三鷹市	30.0%
小金井市	**797.3 グラム**	日野市	579.5 グラム	国分寺市	29.7%
東久留米市	799.7 グラム	三鷹市	582.1 グラム	東村山市	29.5%

※一日あたり市民一人が排出する量(三多摩30自治体中)